

東京五輪でボランティア通訳



リオのオリンピックが幕を閉じ、都民の目は4年後に迫った「TOKYO」に向けてきました。開催の地元であるだけに、五輪を自分と関係づけてとらえている人も多いでしょう。実は私もその一人です。今年、後期高齢者となり2020年は79歳。体も心も頑張れる最後の機会となるかもしれません。これまでにも書いてきていますが、私はこの世界的イベントにボランティア通訳として参加するつもりでいます。といっても、大会組織委員会の選考をパスしなければいけないので、確定的なことは言えませんが、求められている条件はほぼ備えているんじゃないかなあ、との自分なりの観測なのです。

① オリピックの期間、1日8時間10日以上活動が可能なこと
② 活動をするのに必要な語学力やボランティア経験があること
③ 真夏の中での大会になる。健康、体力面に問題がないこと

- ① オリピックの期間、1日8時間10日以上活動が可能なこと
- ② 活動をするのに必要な語学力やボランティア経験があること
- ③ 真夏の中での大会になる。健康、体力面に問題がないこと

① については、なんといってもこちらは定年退職者。最も時間的にフリーな状況にあります。現在は月曜日から木曜日まで、毎日いろんな仕事をしていますが正社員でもないので日程的な調整は問題ないでしょう。

② は、採用倍率が高かった場合、英語の他にスペイン語ができるのが力になるかなと思っています。ボランティア体験については、10年前、知的障害者の「スペシャルオリンピック」が長野県で開催されたとき、ペルーチームと日本の子供達との交流のボランティア通訳として頑張った体験があります。

ということで、①②はたぶんパスしそうなのですが（甘いかなあ?）、私にとっては③が一番大事になってくるでしょう。そのために現在、1日1万歩と自宅の7階まで階段を上ること、週1回のテニスと水泳、年に数回のゴルフコンペ参加で身体を鍛えているところです。

ところで、ボランティアだから活動中の交通費や滞在費はすべて自己負担だと言われています。それでも、世界のトップアスリートと接する機会があり、世紀の平和の祭典に微力ながら貢献しているという意識が大いなる満足感を与えてくれるような気がするのです。

報道によれば、大会組織委員会としては8万人のボランティアを募集のようですが、応募者はかなり高い倍率になりそうです。ロンドン大会では24万人が応募し7万人が選ばれたとのこと。ま、夢を抱くことは無料だから、4年先のゴールの一つとして楽しく期待していくことにします。幸いにも、現在の仕事（中学校で英語教師、シニアの英会話講師、来日するSGI〈創価学会国際ナショナル〉メンバーのアテンド）が外国語に関係するのはラッキー。ちなみに、シニア向けの英会話教室では、「おもてなし」のオリジナル教材を作成し、受講生の皆さんにも「東京五輪では思い出を作りましょう」と呼びかけているところです。

